尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.07

cover photo : Masami SAITO

- message：大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）をご存知ですか?
- topics：北海道胆振東部地震。JADC 会員施設に聞いた。
- join & learn：リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018
- deep inside：介護支援専門員の合格発表について
- meet our friend：あい介護老人保健施設

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

message

大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）をご存知ですか?

『大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT：Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)』は、“東日本大震災リハビリテーション支援関連 10 団体”が大規模災害に組織的に備えるために、2013 年 7 月に名称を変更して新たな組織として設立し、現在、当協会を含む 13 の関連団体が協働して運営しております。設立とあわせて日本医師会 JMAT や DMAT 等の災害医療支援チームとの連携体制の構築および厚生労働省老健局老人保健課等のアドバイスの下での国・行政との協業体制構築にも努めており、現在、公的にも JRAT の存在・位置づけが認知されてきています。

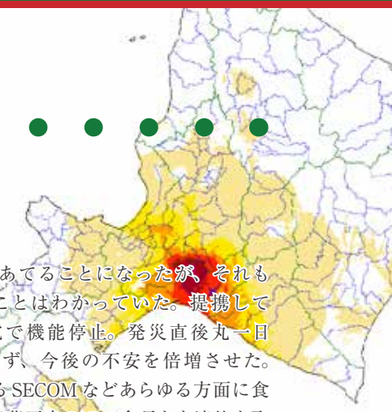
一方、都道府県単位の組織化（地域 JRAT）に向けて 2013 ～ 14 年にかけて災害リハビリテーションコーディネーター研修会を実施しました。全国 47 都道府県から医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員、一部の都道府県では行政職の参加が得られ、現在 35 の都道府県で組織化され、地域 JRAT としての取り組みが始まっています。

JRAT の重要性を明確にした活動が 2015 年 9 月の関東・東北豪雨災害、そして 2016 年 4 月 14、16 日に起こった熊本地震災害でした。関東・東北豪雨災害では「茨城 JRAT」が JRAT 設立後初めて組織的支援を実施しました。熊本地震では全国規模で延べ約 2,500 人が参加して支援活動を行い、当協会は、主に東京本部の活動を支援しました。熊本地震以降も、平成 28 年台風第 10 号で被災した岩泉町にて、いわて JRAT が活動し、平成 29 年 7 月九州北部豪雨では大分県との協定を締結していた大分 JRAT が災害リハビリテーションを実施しています。本年では、平成 30 年 7 月豪雨に対して、岡山県の要請に応じて岡山 JRAT が立ち上がり、全国からのロジスティック（事務）支援および、九州、近畿、四国各地域からの支援チームが被災地にて活動し、広島では広島 JRAT、愛媛では愛媛 JRAT が活動しました。さらに大阪府北部地震では大阪 JRAT が、北海道胆振東部地震では北海道 JRAT（Do-RAT）が災害リハビリテーション支援を実施しております。

自然災害が多い我が国において、災害が生じたとしても被災地の要配慮者が少しでも早く平時の生活に戻られることができるように、災害リハビリテーションの拡充が求められています。全国の会員施設の皆様の JRAT へのご支援・ご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

東京湾岸リハビリテーション病院 院長 / JRAT 副代表
JADC 理事
近藤 国嗣

ToPiCs



災害対応

北海道胆振東部地震。JADC 会員施設に聞いた。

■ 全域停電。ブラックアウト

今年も多くの災害が日本全土を襲った。日本列島は自然災害大国であることを認識させられる平成終盤期といえる。9 月 6 日、午前 3 時 6 分、後に北海道胆振東部地震（ホッカイドウイブリトウブジシン）と命名された災害もそのひとつである。北海道においては震度 7（厚真町鹿沼）を観測したのは初めてのことだ。

「正直に言って油断していたところがあったと思います」と札幌の JADC 会員施設医療法人渓仁会札幌西円山病院の経営管理部長 明円 薫氏（JADC 監事）。「北海道では震度 4 以上の地震が来ないと思い込んでいたかもしれない……」「強い横揺れは長く感じ」、「恐怖以外の何ものでもなかった」と振り返る。発生から約 15 分で全域停電。道内全域、約 295 万戸が停電した国内初のエリア全域停電、いわゆるブラックアウトだ。

■ 安否確保と人員確保

明円氏は発生直後に病院の守衛と看護師長と連動し、状況確認と各種指示を出した。札幌西円山病院は札幌市中央区に位置しており、病院の裏手が丘陵地となっているが、強固な岩盤上に建設されていることが功を奏し、建物および人的な被害はほとんどなかった。しかし、発生直後に襲った全域停電が病院運営に大きなストレスを与えることになる。

災害対策としてあらかじめ緊急連絡網があったが、職員の安否確認および確保も一般回線が発生約 2 時間で麻痺状態となり、全体に行き渡らなかった。地下鉄も明け方には運休となり交通機関も麻痺、人員の全体像を把握しきれなかったという。そんな中、部門、世代単位の LINE 等のソーシャルネットワーキングでの情報共有が、全体像の把握までは至らないものの有益ではあった。「来られる者は来て」のメッセージが共有され、閉ざされた公共交通機関を病院の送迎バスをフル回転させての人員の確保となった。それでも介護系スタッフが不足するのは明白で、約 150 名のリハスタッフのうち 60 名を病棟ケアに配置し乗り切ることになった。

一方、デイケアがグループの福祉法人化に伴い統合されているが、通所・在宅サービス系部門においては、80 名の利用者と連絡がとれず、安否確認のため地域のケアマネジャーなどと連絡を取り合いながら手分けして各戸を訪ね確認した。中には甚大な液状化現象が発生したエリアもあり確認作業は難航したという。

■ 食料と燃料。先が見えない復旧にのしかかる不安

大きな大きな懸念はやはり停電による影響だった。中でも 5 棟が連なる札幌西円山病院は、建築年数に 10 年以上の差があり発電装置などのバックアップ機器の性能もまちまちで、復旧は一筋縄では進まない状況だった。とにかく入院患者のための厨房の電力を優先してつなぐことにした。ただし停電の復旧の目処が見えてこないことから、食料そしてボイラーを稼働させる燃料の確保が最大の不安材料として頭から離れることはなかった。

食料については、職員には非常食で我慢してもらいながら、備蓄食料を患者にあてることになったが、それも 3 日間がリミットであることはわかっていた。提携している食材冷蔵倉庫も停電で機能停止。発災直後丸一日は一切の食料が入って来ず、今後の不安を倍増させた。明円氏は業務提携している SECOM などあらゆる方面に食材の調達要請に走った。斉藤正身 JADC 会長とも連絡を取り合った。斉藤会長も短時間で準備指示を行い、物資をまず青森まで運びその後をどうするか、など話し合われていた。

同時進行で電気を回すためのボイラーの燃料が不足するのも明白でその確保もまた心血削る思いで進められた。燃料は施設基準で 200 ℓ 以上のものは置けない。200 ℓ というと、半日強もつかもたないかである。予備として 200 ℓ 確保していたが、それでも 1 日分としかならない。近隣建築会社から一定量の燃料を家庭用タンクで補給を受けられなんとか凌げることになったが、いつ復旧するかわからない状態。不安は休まることはなく、確保のための活動の手を止めることはできなかった。

■ 災害マニュアルのブラッシュアップ

結局、停電発生から 26 時間後に周辺エリアの電力が回復し、いっきに病院機能が文字通り息を吹き返した。9 月 10 日（月）には、通常業務再開を発信するにいたった。「結果的に電力の復旧で最悪の状況は避けられましたが、JADC をはじめ周囲への要請ごとに皆さん真摯に対応しようとしてくれたことに感謝しています。あのまま電力が戻らなかったらと思うとぞっとします。災害マニュアルは用意していましたが、そのとおりにはいかなかった」と明円氏が振り返る。

病院ではさっそくこれまでの災害マニュアルをブラッシュアップ。職員の安否確認と確保の方法について新たなシステムを導入、燃料の備蓄を 1,000 ℓ 増量、自家発電機の古い方から入れ替え、備蓄品を 3 日間から 5 日間に増やす、などが話し合われ、すでに燃料はいわゆる家庭用タンクで外付けで用意され、自家発電機の入れ替え予算を確保したという。

今や日本全国で災害の危機に直面する意識を持つことが大切である。2018 年リハケアにおいても発表があったが、そこには地域によって対策には温度差もあるように感じた。意識向上と同時進行で統一的な情報共有、地域規模・特性に見合った実質的な準備と訓練が各地で進むことが望まれる。

ちなみに明円氏によると、LED のランタンが想像以上に役に立ったとのこと。分割にできるホームセンターで簡単に手に入るものだ。珍しい話ではないが、停電を経験した者が語るとその重みを感じる。

医療法人渓仁会
札幌西円山病院 経営管理部長
JADC 監事 明円 薫

join & learn イベント レポート

リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子 2018

今回で 22 回目の開催となる本大会は、今年は鳥取県米子市で開催され、演題数は約 800 演題、参加者数は 2,000 人を超える盛況な大会であった。

テーマは『互恵互助』、お互いが助け合い、お互いが幸せを分かち合うことを掲げ、主催の大会長である角田賢先生（錦海リハビリテーション病院 病院長）の大会長講演から始まり、その後今年度日本リハビリテーション病院施設協会の会長となった斉藤正身先生（JADC 会長）を座長とした、廣江研名誉大会長（社会福祉法人こうほうえん 理事長）の熱のこもった基調講演をはじめ、最新の内容、主催団体のシンポジウム、最後は市民公開講座『地域包括ケア時代の看取りを考える－その人らしく生き、その人らしく死ぬということ－』として、茨城県立健康プラザの大田仁史先生とこの鳥取で長年地域を支えているいなば幸朋苑総合施設長の加藤一吉先生による地域にあるべき看取りの姿と長年行ってきた看取りの経験を聴講することができた。

本大会では以前よりも地域での活動の発表が多くなってきていた印象を受けた。今回のテーマのもと、近い将来必要な地域の形である地域包括ケアの構築に向け、各地で活躍するスタッフがその奮闘を紹介していた。

『地域包括ケア』、この言葉が出現してもう 10 年近い年月が経つと思われる。最初は夢のようなシステムなのでは、と感じていたものだが、今回の発表や講演などから、様々な地域で、それぞれの地域独自の形を国の施策を上手く利用しつつ、また時に抗いながら具体的に構築している姿がたくさん見受けられた。

将来年齢を重ねていき、また何らかの障害を持ち、自身で意思決定ができなくなる可能性がある中、アドバンス・ケア・プランニングが行える社会が重要となる。特別講演で厚生労働省の蒲原基道先生は地域共生社会の必要性を話されていたが、自身がその地域で最後まで安心して生きていきたいと思う地域づくりが必要であり、またそれは高齢者のみならず、障がい者、子どもを含め、そこで暮らす方々すべてが幸せになる形をみんなで考えていくシステムが必要である。

人とのつながりを大事にしながら、その地域を母体に、そこで住まわれている様々な方同士が助け合う、そして助け合うだけではなく、お互いが幸せになる、役割を持てる、そんな地域を作っていくことが必要と感じた。

今住んでいる自分の地域で、地域共生を含めての地域包括ケアを考えるには、まずは自身が住む地域を知ることだと改めて感じた。地域はどのような状況で、何を欲しているのか、そしてその地域で生活する一員として、自分はどうしたいのか、それを知り、考えた上で、地域とどう向き合ってサービス提供していくのか、常に考え続けて地域と向き合っていきたい。

JADC 広報委員 多良 淳二
介護老人保健施設イマジン リハビリ科 科長

■活動と参加してみた！ ①

神話の故郷山陰と地域包括ケアシステム。

今回、山陰初開催となるリハビリテーション・ケア合同研究大会 米子 2018（10 月 3 日～ 4 日）に参加させていただきました。台風 25 号直撃の恐れがある中、1800 名を超える参加がありました。初日は大会長講演（角田大会長）および基調講演（廣江名誉大会長）があり、神話の故郷山陰の話を交えながら鳥取県が抱える人口減少や過疎化等の課題提示と地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組みについて提言があり、同じ課題を抱える地方に向けた力強いメッセージは大変印象に残りました。また私は一般演題・通所サービス㈱の座長として 5 演題の発表および質疑応答を担当しました。訪問リハビリと通所リハビリの相互利用を活かすことで介護指導が円滑に実践できたケース報告、リハビリバス旅行やリハビリテーション会議を通して QOL を高めた好事例発表など、通所または訪問サービスの特性を最大限に生かした発表が多数あり座長として大変嬉しい限りでした。私自身、今回の発表者に負けないよう、通所・訪問リハビリテーションが地域住民にとって重要な存在になれるよう尽力していきたいと思います。

医療法人タピック　介護老人保健施設 亀の里 管理部長
理学療法士 荒木 伸

活動と参加してみた！ ②
主催団体シンポジウム 全国デイ・ケア協会

30 年改定でデイケアはどう舵を切ったか

JADC のシンポジウムは「30 年改定でデイケアはどう舵を切ったか」というテーマで、座長で JADC 理事の岡野英樹氏（医療法人真正会 本部 部長）のもと、シンポジストとして当協会加盟の施設でマネジメントの中心を担っている野尻晋一氏（医療法人社団寿量会 介護老人保健施設清雅苑 副施設長）、森山雅志氏（医療法人共和会 地域リハビリテーション部 部長）、加藤誠氏（医療法人社団東北福祉会 介護老人保健施設せんだんの丘 統括部長）の 3 名のシンポジウムとなった。

まず座長の岡野氏からは、リハビリテーションマネジメント加算の改変で医師の関わりの強化が行われたこと、科学的介護データを提供することで国が（何を）理解できるようになったか、また通所リハは施設内に留まるのではなく、地域へ出て社会活動を実施していってほしいという内容であった。

3 名のシンポジストからは、各事業所での取り組みと症例を通してどのように実践していったかという内容であった。各事業所リハマネⅢ・Ⅳの算定率が非常に高く、どのように高い算定率を実現できたかという部分は、とにかく利用者に説明をしたということであった。野尻氏の事業所では合計 33 回の説明会を行い、必ず 1 回は参加してもらえるように働きかけを行っていたり、既に 27 年度改定の時に説明を行っていたことで 30 年度改定の際に難渋することはなかったとのことであった。

また、各事業所ともデイサービスやサロンとの連携等、特に地域に出向くことを行っており、顔の見える関係づくりを行う中で、加算についての理解を得やすくなり、利用者の受け入れ先ともなっていた。通所リハがどのような機能を持っており、「自分たちは何が出来るのか」ということを理解してもらうためにも、地域に出向き丁寧な説明を行い、その中で顔が見える関係づくりが必要であるとのことであった。

話を聞いていて、これらのことは実はそんなに特殊なことではないという印象を持った。丁寧な説明や顔の見える関係づくりは、本当にごく当たり前のことを言われているのに、なぜ今自分の事業所が行えていないのかについては、日々の業務が忙しいということを言い訳にやってこなかっただけのことではないかと強く感じた。

最後に岡野氏から、「30 年改定でデイケアはどう舵を切ったか」というテーマであったが、実は舵は切っていないとの話があった。今まで利用者のためを思い、無報酬で行われてきた取り組みの中で、結果を示してきたものに加算がついただけである。そして加算がついたからその取り組みを行うだけでなく、今後も利用者のために良いと思うことはどんどん行っていってほしいとのことであった。

通所リハで働く中で制約の多さを感じることは多々あり、それが障壁となり諦める取り組みもある。利用者様のニーズに答えるために制度を活用し、そしてまだ制度ではないものでも、今後も取り組み続けることで制度として認められ道が開ける可能性があると背中を押してもらったよう感じた。

今回のシンポジウムを聴講し感じたことは、制度ありきではなく、今目の前にいる利用者に全力で向き合っていくという当たり前の事を行い続けることが重要ということである。

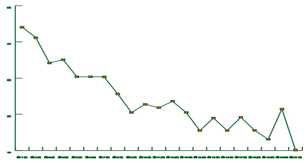
医療法人社団永生会 永生クリニック
理学療法士 松井佳奈美

ニュース深層海流

デイケアを取り巻く様々なニュース、その深層にあるもの、流れを見て皆で考えましょう。

12 月に入ると、様々な行事事が重なる。その中で我々にとってのトピックスは、介護支援専門員の合格発表がある。今年度も多くの人たちが発表の瞬間を緊張の面持ちで待ち受けたに違いない。と私は思っているが、どうやら随分趣が違うようだ。

昨年度の受験者数上位 17 都道府県の受験者数と合格者数について、とあるウェブサイトで集計されていた。このサイトでの集計結果から言うと、平成 29 年度の合格者は 19,200 人とされており、本年度の合格者は 3,177 人となっている（あくまでも受験者数上位 17 都道府県での集計）。受験者数は 30,289 人というから、合格率は約 10% となる。ちなみに私が住まう宮城県においては、受験者数 1,337 人、合格者数 87 人で、合格率は 6.5% となっている。受験者数上位 17 都道府県に宮城県は入っているが、合格率はとても上位とは言えない（最も合格率が高かったのは埼玉県で、1,885 人が受験し 265 人が合格。合格率 14.4%）。



受験者数全体でみれば、昨年度は 13 万 1,560 人、今年度は 4 万 9,312 人と約 6 割程度減少している。これに対して厚生労働省は、「受験資格の厳格化が大きく影響した」と説明している（ヘルパー 2 級などを対象から除外した事など）。因みに 1998 年第一回試験の合格率は 44.1% であり、その率は例年低下していたが、本年のそれは大きく更新する事となったのは言うまでもない。加えて、福祉系国家資格のなかで、難関とされる社会福祉士の合格率は、45,000 人程度の受験者数に対し、12,000 人程度の合格者がおり、例年 25 ～ 30% 程度の合格率となっている。こうしてみると本年の介護支援専門員の受験者数と社会福祉士の例年の受験者数は近づいてきたが、合格率で見ると介護支援専門員の試験の方が、はるかに難関であるように見える。

記念受験といった言葉もある。または、思い出作りといった言い方をする人もいる。これは、合格を目的としない受験を指す場合が多い。社会福祉士含む国家資格に臨む受験生の場合、必要科目や実習など受験資格を得るためにいくつもハードルがあるため、その成果を集大成として合格したいという熱意は高い。しかしながら、介護支援専門員の場合、ある程度要件を満たし、実務経験を積んだものには受験資格を得られる。そのため、なんとなく受験するケースも多いと聞く。しかしこのような背景があるとすれば、受験者数や合格率に大きく影響するのは当然だろう。

ケアマネジメントは専門職によるチームケアには欠かせない。当然責任も大きいが、その分やりがいも大きく、専門性も高い。大変魅力にあふれている仕事である事を多くの人たちに知ってもらいたいし、いずれ小学生がなりたい職業にランクインしてほしいものだ。

JADC 理事 土井勝幸
介護老人保健施設せんだんの丘施設長

meet our friend

会員施設自己紹介

ちょっと自慢入ります。

社会医療法人河北医療財団 多摩事業部
介護老人保健施設 あい介護老人保健施設

在宅での豊かな毎日を応援していく。

〒206-0036 東京都多摩市中沢 1-17-38
http://kawakita-tama-ai.jp/rouken/

あい介護老人保健施設は、東京都多摩市にある施設です。多摩市は全国的にも急速な高齢化が進んでいる地域ですが、地域の医療･介護･福祉と連携を図り、住み慣れた地域での暮らしをサポートすることに力を入れています。

あい介護老人保健施設の取り組み

「いつまでも自分の家で暮らしたい」という想いを実現出来るよう外出練習や調理練習、合同自主トレーニングなど多様なリハビリテーション･プログラムを提供し、ご利用者、ご家族のより良い生活支援を行っています。

またデイケア利用者を対象に、訪問リハビリの提供も行っています。デイケアではサポート出来ない自宅場面での生活課題解決に向けたアプローチを、デイケアと同じスタッフが実施しています。

大切にしていること

デイケアご利用者へ提供するサービスだけでなく、ご利用者を支えるご家族への支援にも力を入れています。ご家族同士の交流や悩み相談の場としての家族会、リハビリテーション会議や居宅訪問にて、ご家族への介助指導・生活指導も行っています。

ご利用者においてもデイケアで過ごす時間よりも、それ以外の時間の過ごし方を充実することが、生活課題の解決に繋がっていきます。リハビリテーションマネージメントⅢの算定率は 50% 程度ですが、ご自宅での様子や環境の評価、他サービス利用場面に立ち会い介助指導やプラン内容の共有を行うなど、今後もご利用者、ご家族の生活課題の解決に向け、様々な取り組みに力を入れていきます。

JADC EVENT SCHEDULE 平成 30 年度 JADC 下半期開催予定

看護・介護		
大会名	開催日	会場
通所リハ計画 立案・実践研修会（大阪）	2/23（土）	新大阪丸ビル別館
リハビリ専門職研修会		
研修会名	開催日	会場
新生活行為向上リハビリテーション研修会（札幌）	3/30（土）～/31（日）	ACU-A アスティ 45
認定管理者研修		
研修会名	開催日	会場
第６回デイ・ケア　スキルアップセミナー	調整中	東京

注目イベント

活動と参加してみたら、もしかしてミッキーにも会えるかも。

回復期リハビリテーション病棟協会　第 33 回研究大会 in 舞浜・千葉

今号の注目イベントは、JADC も後援する回復期リハビリテーション病棟協会 第 33 回研究大会 in 舞浜・千葉です。2019 年 2 月 21 日（水）～ 22 日（木）に開催されます。

メインテーマは、“宣言。科学と情熱。”。今後、回復期リハビリテーション病棟には、結果を生み出す質の高い医療の実践、それを実現させるための医療技術の刷新が求められてきます。本大会では、結果を生み出す学際的な科学、そして目標を実現していく情熱を大会テーマの両輪とし、回復期リハビリテーション医療、リハビリテーション医学の向上に寄与できる大会にしたい、と近藤国嗣大会長はアツク語っています。

その意気込みは開催場所にも。千葉は舞浜、ディズニーシーホテルミラコスタ、ディズニーアンバサダーホテルが主会場となっているのです。これも新しいトライ。ランチョンがシェフミッキー風とはいかないでしょうが。。。。。

大会長 近藤 国嗣（東京湾岸ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院 院長）副大会長 宮﨑 正二郎（医療法人社団保健会 理事長 / 谷津保健病院 院長）
大会事務局 東京湾岸リハビリテーション病院　〒 275-0026 千葉県習志野市谷津 4 - 1 - 1
Tel / Fax：047 - 453 - 9000 / 047 - 453 - 9002　E-mail：kaifukuki2019@wanreha.net

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

介護、デイ・ケアサービスの追求

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、全国のデイ・ケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供を目的とし開設、20 年にわたり活動を続けて参りました。

近年、通所系サービスの役割は急速に高まり、介護予防・認知症疾患・重介護者等、様々な対象者層へのリハ・ケアの提供が求められるようになってきました。

制度的には多くの課題を抱える中、運営の適正化と質の向上、関係機関との連携、住民への啓発等をより公的な立場で取り組んで参ります。地域包括ケアシステムの構築が推進される中、病気や障害のある人たちが尊厳をもってその人らしく生きていくことの出来る社会を目指し、通所系サービスの組織としてその活動に取り組んでいく次第です。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 14 番地千代田寿ビル 3 階 303 号室
TEL：03（5207）2710　FAX：03（5207）2711
E-mail：info@day-care.jp

協会認定制度のご案内

当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方について検討を重ね、平成 25 年度より協会認定制度を開始いたしました。通所系サービス (通所介護・通所リハビリ等) の質の向上、利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援を行い、地域リハビリテーションの普及・啓発を促すことを目的に、管理者及び事業所を対象とした協会認定制度を創設いたしました。

認定管理者とは、「通所系サービスの中心的な役割を担う者として、必要な専門知識・経験・技術を有することを認められた者」としました。

認定事業所とは、「事業所として満たすべき基準をはじめ、取り組みや特色・方針が認められた施設」としました。

http://www.day-care.jp

編集後記

2018 年は日本全国で地震や台風被害など、様々な災害が起こりました。会員の方々へも多大な影響があり、また制度上でも介護保険の改正があり、JDAC の会員の方々も大変ご苦労なされた年であったかと思います。2019 年は元号の変更や、消費税の増税なども予定されており、まだまだ様々なことが起こりうる可能性がありますが、会員の方々が何かの時に活かせる内容として、今後も広報誌の作成に励む次第です。今後ともよろしくお願い致します。

JADC 広報委員 多良 淳二
介護老人保健施設イマジン リハビリ科 科長

デイケアニュース 07号　2018年12月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会